セミナー通信
―教育実習総合センター―

教育実習総合センター
副センター長　藤原　悟

教採試験にむけてのエール

あなたは、どんな人と一緒に仕事がしたいですか？
夢のある人、知識・常識のある人、協調性のある人、人の気持ちのわかる人、子どもたちがワクワクしそうな人がいいですね。
子どもや教育に対するあなたの柱は、何ですか？
論作などで学習したあなたの教育に対する幹を再確認しましょう。幹ができれば、枝葉は出て大樹になるでしょう。
信頼して任せられる先生がいいですね。
面接官の目でした。
さぁて、行間を読み取ってもらえたでしょうか？
この先生に子ども達を託したい。
子ども達に夢を与えてもらいたい。
どの府県市も採用したい先生に差はありません。
色々な勉強方法・情報収集も必要ですが、氾濫する情報に惑わされることなく今までやって来たあなたの準備に自信を持って臨んでください。
自信過剰は困りものですが、自信の無いのは、より困りものです。センターの面接指導などで多くのコーディネーターの意見を聞き、しっかりとした準備をしましょう。

★教育実践セミナー６月20日【先輩からのアドバイス】

「教採に向けての心構えと対策」を学ぼうと、Ｐ１生の皆さんを対象に、10名のＰ３生が主体的に準備をして取り組んでくれました。

第一部の全体会では、教採に向けての過ごし方「長期休暇編」と「大学講義編」に続いて、「教員採用試験概要」「各試験内容への対策方法」等が簡潔にまとめられたプレゼンによって、Ｐ３生からＰ１生へ届けられました。Ｐ１生の皆さんにとっては、教採といってもまだまだ先？といった感覚だった人も、来年の合格のために、これからの毎日をどのように過ごしたらよいのかといった指針が得られました。

第二部では、事前にリサーチした結果に基づき、受験自治体毎に３グループに分かれ、個別相談会が行われました。
相談内容は「自治体の選び方」や「教師になる上で日ごろから気を付けていること」、「ボランティアやサークルなど学習外活動での目的をどう設定すればよいのか？」など、具体的な質問にきめ細やかに対応するＰ３生の姿が見られました。
ゼミでの研究や学修で忙しい中、後輩の皆さんの合格に向け、少しでも役に立てばと、時間をとって準備をしてくれたＰ３生の頼もしい姿と、来年夏の教採を見据えるＰ１生の皆さんの初々しい姿が対照的でもあり印象的でもありました。

★教採サポート６月８日・１５日【小学校英語特別セミナー】

小学校教員志望者に対する外国語、主に英語の運用能力や授業力への要求がますます高まる中、教員採用試験においても英語に関する各種試験が行われています。そこで、当センターでは、次の要項で特別セミナーを実施しました。

【目標・効果】
筆記試験、リスニング試験、英会話試験の傾向を把握し、演習を行うとともに、今後の自学自習の方策について見通しを持つ。

【内容】
第一回　オリエンテーション・筆記試験対策
①英語に関する全国的な出題の傾向
②筆記試験の概要説明
③頻出問題の演習
第二回　リスニング・英会話試験対策
①リスニング試験の概要説明
②聴解・発音のための基礎的内容の確認
③頻出問題の演習
④英会話試験の概要説明
⑤今後の勉強方法と教材について
（受講者の感想から）
・教採向けの英語問題の解き方は全く習っていなかったので、とても参考になりました。
・講師先生が準備してくださった練習問題に頑張って挑戦しようという意欲が出ました。
・英語を聴く際、背景や文脈を知り、それを解く時に生かすという聴き方は非常に参考になりました。
・リスニングの勉強法が分かりましたので、とても参考になりました。
・教採の過去問を解きたいと思います。英検の過去問を解きたいと思います。

★指導していただきました和田あずさ先生には、新しい分野の教採サポートとして、特別セミナーの内容・教材等を準備していただき、ありがとうございました。
このセミナーが、教員採用試験の英語への不安を取り除き、英語を学んだり教えたりすることを楽しむきっかけになるようお願っています。

★教育実践セミナー６月27日【特別支援教育の実際】

昨年度に引き続き、三木市立緑が丘中学校から、佐藤　豊先生をお招きし、特別支援教育の実際についてお話をしていただきました。

【テーマ１】社会情勢の変化と特別支援教育の考え方の変遷
【テーマ２】子どもたちと関わるうえで大切にしたいこと
～子どもたちから学んだこと～
最後には、これからの教育を担う皆さんにお願いしたいこととして、特別支援教育最前線の現場から熱いメッセージをいただきました。「教師としての方向性を大切にしてほしい」という言葉が受講生の心に深く残ったようでした。
（Ｐ１生の感想から）
今日、具体的なお話をたくさん聞き、心が動かされることが多々ありました。特別支援学校で働かなくても、教師として、必ず持っておかなければならない視点や考え方を確認することができました。一番印象に残った言葉が、「今、できているかどうかではなくて、自分がどの方向を向いていて、今、どう努力しているか」です。私も、今、自分がやっていることが正しいのか、答えが出なくて悩むことがありますが、この言葉を大切にしてがんばっていきます。今日は、本当にありがとうございました。
（Ｐ１生の感想から）
教師として、子どもに何ができるかということを一番に考えてしまいますが、子ども自身の力、共に育ち合う力、子どものしたいことを信じていくことが大切だと感じました。子どもから学ぶことも多くあると改めて感じることができました。この気持ちをずっと忘れずにいたいです。ありがとうございました。

今回のセミナー【特別支援教育の実際】から、今後の教採対策にも活用できるポイントをまとめておきます。

特別支援教育の理念（2007.4）
特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。

インクルーシヴ教育
1994年スペインのサマランカで行われたユネスコの「特別なニーズ教育：アクセスと質に関する世界会議」で採択された教育理念。

個別に必要な合理的配慮
障害のある子供が、他の子供と平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行なうこと。
（インクルーシヴな学校を実現するために、どのようなことが必要か？に対する受講生の意見から）
・特別なニーズを必要とする子どもの周りの環境（子ども、先生、大人、地域住民）がその子を理解し、受け入れようとする態度を持つ
・児童・生徒に寄り添おうとする気持ち
・可能な限り共に学ぶことを大切にする
・一人一人が他者に関心を持つ
・教師がインクルーシヴ教育について理解し、学校教育の中で積極的に取り入れていく
・教師が色々な視点を持つ
・教職員が専門的知識を身に付ける

★どれも貴重な意見です。将来教壇に立った時にも、また、教員採用試験の面接や論作文対策にも生きてくる重要な視点や考え方が含まれています。

★いよいよ七月。教員採用試験が始まります。当センターでは、昨年度より早い時期から教採サポートを実施し、受験者の皆さんのニーズに対し可能な限り対応してきました。あとは、体調管理を第一にして、持てる力を精一杯発揮してください。健闘を祈っています。